

科目名称	官能評価学
授業コード	AA258
英語名称	Sensary Evaluation
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	佐野 友彦, 今井 健雄, 引地 聡, 首藤 愛呼
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>生命科学科のディプロマポリシーである「生命科学・臨床工学に関する多様な問題に対して、必要な情報とデータを取得し、解析し、論理的思考と専門知識に基づいて問題解決に取り組むことができる。また、得られた成果を相手に適切に説明できる。」及び「生命科学・臨床工学に関する新たな課題を自ら見つけ、探求することができる。」資質、能力を養成することを目的にカリキュラムポリシーに定める香粧品の専門知識を習得することを目的とする講義である。</p> <p>消費者が日常生活の中で、「使って気持ちがよい」、「気に入る」などの情緒的な判断をすることはが多い。ほぼほとんどの製品においてこの情緒的な判断がされていると言っても過言ではなく、このような主観的な判断は日常生活の上で重要であるが、その判断を客観性や定量性にとらえることは意外と難しい。官能評価法はこの人の主観的な判断をより客観性、定量性を持たせて評価できる重要な方法である。この講義では官能評価の基礎となる統計処理と香料、化粧品、食品の分野での官能評価の実例を講義します。統計の基礎知識を事前に習得しておいてください。（強く推奨）</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>官能評価法の基礎を学ぶとともに企業で実務経験のある教員が専門分野の基礎知識、応用を講義します。</p> <p>官能評価について各分野の実例を講義する予定。</p> <p>引地先生 香料</p> <p>今井先生 顔印象、メイクアップ</p> <p>首藤先生 食品の官能評価</p>
到達目標	<p>「生命科学科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー（授業概要参照）に定める、生命コースにおいて専門性を高めたような生命科学の問題や課題に対処する能力を養成するために必要な「バイオテクノロジー系」の専門科目であり、ディプロマポリシーで求めている、豊かな教養と倫理観を身につけ、生命科学に関する多様な問題に対して、必要な情報とデータを取得し、論理的思考と専門知識に基づいて問題解決に取り組むことができるようになることや、生命科学に関する新たな課題を見つけ、探求することができるようになることを目指す。」</p> <p>具体的には 主観的な評価は多種多様な分野で必要な評価方法である。官能評価法を理解することにより、主観的な評価法の設計、結果の解釈ができるようになり、香粧品、食品、サプリメント、衣服などの分野でも応用できる知識、能力の獲得を目指す。</p>
計画・内容	<p>授業は隔週 木曜日 1、2 時限目 2 コマ/日の授業を行う予定です。</p> <p>1) 講義概要説明、講義の進め方 ガイダンス(佐野)</p> <p>2) 官能評価とは？ 必要性和機器による評価との違い (佐野)</p>

計画・内容	<p>3) 統計の基礎 (正規分布、検定) (佐野)</p> <p>4) 統計的方法 特性、分類 (佐野)</p> <p>5) 統統計的方法 尺度 識別性 (佐野)</p> <p>6) 統統計的方法 検出感度 (佐野)</p> <p>7 感覚器の構造と機能 (佐野)</p> <p>3 - 7) は順不同、演習を含みます</p> <p>8) スキンケア製品の官能評価 (佐野)</p> <p>9) 香りの官能評価 1 (引地先生)</p> <p>10) 香りの官能評価 2 (引地先生)</p> <p>11) 顔印象、メイクアップ製品の官能評価1 (今井先生)</p> <p>12) 顔印象、メイクアップ製品の官能評価2 (今井先生)</p> <p>13) 食品の官能評価1 (首藤先生)</p> <p>14) 食品の官能評価2 (首藤先生)</p> <p>15) まとめ、復習)</p> <p>重要) 授業について 隔週 木曜日 1、2 時限目 2 コマ/日の授業を行う予定です。 例えば初回講義は 1)、2) を行う予定です。 1 回目の授業は掲示板、campus square など連絡しますので注視してください</p> <p>講義日程、講師、講義内容は変更になる場合があります。</p>
授業の進め方	<p>授業は資料を用いて講義します。必要なスライド資料は事前にcampus squareに掲載します。</p> <p>対面授業では、体験の要素を取り入れた講義を行う予定です。</p>
能動的な学びの実施	<p>統計では演習を行い、応用ではそれぞれ官能評価を体験してもらう予定です</p>
授業時間外の学修	<p>予習：講義内容について事前に参考書などを読み、自主的に学習する。その際、疑問点などをまとめておき、授業などで毎回理解することが望ましい(各講義回 1 時間程度)。</p> <p>復習：配付資料、自分で作成したノート、教務システム等で配布するスライド資料を利用して、講義のポイント・理解を要する点について必ずまとめておくこと(各講義回 1 時間程度)</p>
教科書・参考書	<p>参考書 官能評価の理論と方法 日科技連を用いて授業を行う 統計の授業ではこの本使用します</p> <p>参考書 官能検査入門 日科技連 化粧品の使用感評価法と製品開発 CMC出版</p>
成績評価方法と基準	<p>期末試験で成績評価を行う。(70%以上)</p> <p>課題の提出、授業中の態度を考慮して成績評価を行います(30%以下)</p> <p>8 回目以降の授業は簡単な実習を行いますので、必ず出席してください。 欠席の場合は減点する場合があります</p>
課題等に対するフィードバック	<p>授業では、演習問題の回答、解説を行う</p>
オフィスアワー	<p>CampusSquareを参照</p>

留意事項	<p>(重要) 授業について 木曜日1、2時限目 2コマ/日の授業を行う予定です。 1回目の授業については 掲示板、campus squareなどで連絡しますので注視してください 2回目以降の講義予定は原則 隔週 2コマ/木曜日 に行って行く予定ですが、変更になる場合もありますので、授業中、掲示板、campus squareなどで連絡します。注意してください</p> <p>基本的な統計の知識は必須である。 授業でマイクロソフトエクセルを使用する予定 化粧品に関連する講義(毒性薬理学、皮膚のサイエンス、官能評価学)の履修が望ましい</p> <p>特別な事情で欠席し、配慮を求めたい場合は所定の欠席届を必ず事前に提出すること</p>
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>講義</p> <p>1 - 7回目 主に遠隔授業を行います 遠隔授業。 説明資料と課題を掲示し、課題の提出を求めます。zoomによるリアルタイム授業、ビデオなどを使用したon demand授業も検討する。 遠隔授業と対面授業を併用する場合があります。</p> <p>8回目以降の応用に関する講義は簡単な実習を伴うため対面授業または教室でのzoomによる遠隔授業を行います</p> <p>成績評価 成績は毎回の授業の課題の提出を出席として扱う。ただし、白紙の課題、またはそれに類する不十分な解答の場合は出席と認めない場合がある。課題の内容と出席状況(50%-60%)、定期試験またはレポートによって評価する(40%-50%) 対面での試験実施が不可能な場合はそれに代わる課題(レポート又はzoomsを利用した試験など)での評価や出席を100%として評価する場合がある。</p> <p>その時の状況によって変更することがあります</p>